

第2節 基本目標1 社会参加といきがづくりを支援します

施策1 いきがいのある暮らしへの支援

高齢者が地域の中でいきいきと活躍し、幅広く交流するための活動の場を整備します。また、区民による自主活動への支援や、社会参加の機会につながる講座やイベント等を開催することにより、多様なニーズを抱える高齢者がいきがいをもって暮らせる環境づくりを進めます。

現状

【高齢者の社会参加といきがづくりの拠点整備】

■区では、高齢者の社会参加といきがづくりの拠点として、平成20年度から高齢者のライフスタイルやニーズの多様化などに対応するため、ことぶき館をシニア活動館や地域交流館に機能転換し、整備しています。平成26年度末には、シニア活動館4館、地域交流館14館が整備され、平成27年度に新たに1館が地域交流館として運営を開始します。シニア活動館は50歳以上、地域交流館は60歳以上の方を対象とし、指定管理者制度を活用した運営により、介護予防やいきがづくり等の講座を開催したり、団体活動支援を行っています。

【イベント・講座等の開催】

- 高齢者のふれあいのきっかけやいきがづくりのために、シニア活動館や地域交流館において、指定管理者が様々な講座を開催しています。また、区では長寿を祝う敬老会の開催、日頃の活動の発表の場としての高齢者福祉大会、外出機会と仲間づくり、健康づくりのためのいきいきハイキング等を実施しています。
- 生涯学習の分野では、多様なニーズに対応した定期的な学習機会の提供と仲間づくりの場の提供を目的としたライフアップ講座や、日頃の文化芸術活動の発表の場として生涯学習フェスティバルを開催しています。また、生涯学習館等で活動する区内自主活動団体が企画する区民向け講座・イベント支援を行う区民プロデュース支援事業を実施しています。
- ライフアップ講座については、平成23年度には41講座開催し1,559人が参加しましたが、ニーズ把握によるプログラムの見直し及び人気の高い講座の継続開催等の工夫を行い、

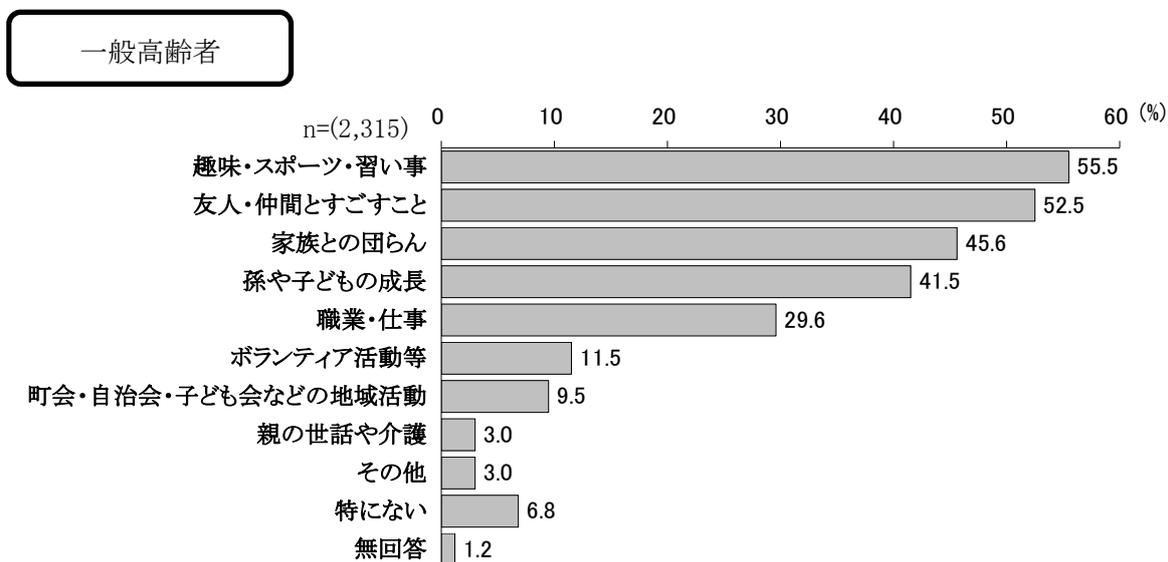
平成25年度には18講座で2,288人に増加しました。また、生涯学習フェスティバルでは、平成24年度に陶芸展を追加しました。出展・出演者は平成24年度の3,274人から平成25年度は2,922人になり、若干減少しています。

【自主活動の状況】

- シニア活動館、地域交流館、生涯学習館等では、多くの自主活動団体が登録し、活動しています。
- 新宿区社会福祉協議会が立ち上げや運営支援している「ふれあい・いきいきサロン」は、外出機会の少ない高齢者、障害者、子育て中の方など地域に住む住民同士の情報交換や多世代交流、子育て中の不安解消などを目的に開かれています。
- 「ふれあい・いきいきサロン」では、支援サロン数が年々増加しており、それに伴って参加者も増加しています。平成25年度末時点で60サロン、平成26年度には65サロンになる予定です。
- 高齢者クラブは、平成25年度末時点、123クラブ、会員6,540名となっており、区ではこれらのクラブへの活動費用の助成や運営支援を行っています。

平成25年度「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果では・・・

★いきがいを感ずること（複数回答）



「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果によれば、一般高齢者でいきがいを感ずる割合は、「特にない」が6.8%となっており、9割以上の方が何らかのいきがいを感ずっています。

今後とも少子高齢化が進展していく中で、高齢者も地域を支える大切な一員です。高齢者のいきがい活動が地域活動の活性化につながるよう、活動拠点や参加の機会づくりを考えていく必要性がうかがえます。

課題

【建物の老朽化への対応】

- 地域交流館やシニア活動館などのいきがづくりの拠点整備について、建物の老朽化が進む中、建物の維持管理の方法や運営方法について検討をしていく必要があります。

【参加者ニーズの把握】

- 敬老会やいきいきハイキング等、参加者が横ばい、又は減少している事業も一部見られることから、区民ニーズを把握し、魅力ある内容にしていく必要があります。また、生涯学習フェスティバルにおける出展・出演者についても一部減少している状況があることから、既に活動している区民やイベント・講座等への参加者のニーズを把握するなど、内容等を工夫する必要があります。

【参加者・活動者の減少】

- 「ふれあい・いきいきサロン」は、サロン数が年々増加している一方で、既存サロンでは参加者・活動者の減少や、運営する活動者の高齢化等により休止に至るサロンもあり、活動を継続するための運営支援を行っていく必要があります。
- 高齢者クラブなど区内で活動する自主活動団体等についても、高齢化等により参加者が減少する傾向があり、活動を活性化するために支援する必要があります。

取組の方向性

【機能転換等による拠点整備の継続実施】

- 高齢者の社会参加といきがづくりの拠点整備については、ボランティアなど社会貢献活動の拠点とする新たな機能を加えた「シニア活動館」と、地域での仲間づくりや介護予防などに取り組む場となる「地域交流館」への機能転換による拠点整備を継続して実施していきます。

【各種事業の充実による参加促進】

- いきがいのある暮らしにつながるイベント・講座等として、敬老会や生涯学習フェスティバル、ライフアップ講座等の各種事業の内容を充実させながら継続実施します。内容については、区民ニーズを把握し、話題性のある演目の実施や、より興味を持てる趣味や仲間づくりの講座等を、区民との協働等も取り入れながら実施していきます。

【自主活動への継続的支援】

- 新宿区社会福祉協議会が立ち上げや運営を支援している「ふれあい・いきいきサロン」については、既存サロンへの定期的な訪問及び聞き取りによる実態把握をしていきます。活動者のスキルアップを目的とした各種講座の受講の推奨、年2回の連絡会の開催によるネットワークづくり等の継続的な活動のための支援を行っていきます。
- 高齢者クラブの継続的活動のために、周知への協力や活動内容の充実に向けた支援、立ち上げにおける運営方法への助言等ができる体制を強化し、会員増と活動の活性化を図ります。
- 区内で活動する自主活動団体等が実施する講座やイベント等の事業に対して、助成金の支給や会場確保、広報等の支援を行い、活動者の増加と団体の活性化を図ります。

施策を支える事業

○主な事業

事業名 (担当課)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
高齢者の社会参加といき がづくりの拠点整備 ※二次 (福祉部 高齢者福祉課)	ことぶき館を、ボランティアなど社会貢献活動の拠点とする新たな機能を加えた「シニア活動館」と、地域での仲間づくりや介護予防などに取り組む場となる「地域交流館」に整備します。	シニア活動館 4館 地域交流館 14館	シニア活動館 5館 地域交流館 15館
高齢者クラブへの 支援・助成 (福祉部 高齢者福祉課)	高齢者が元気でいきいきと暮らすため、自主的に組織して運営する高齢者クラブ及び高齢者クラブ連合会の事業費の一部を助成します。	連合会 1連合会 高齢者クラブ 123団体 6,296名	連合会 1連合会 高齢者クラブ 126団体 6,400名
敬老会 (福祉部 高齢者福祉課)	77歳以上の高齢者を演芸などの催しに招待し、長寿を祝います。	来場者数 3,400人	来場者数 4,000人

事業名 (担当課)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
高齢者福祉大会 (福祉部 高齢者福祉課)	高齢者クラブ会員及びことぶき館等の利用者が、日頃研鑽した唄や踊りを披露する発表会を、年一回開催します。	参加数 75 団体 775 人出演 来場者数 約 1,400 人	参加数 75 団体 850 人出演 来場者数 約 1,400 人
生涯学習フェスティバル (地域文化部 生涯学習 コミュニティ課)	新宿未来創造財団を通じて、生涯学習活動者の日頃の文化芸術活動の成果を発表するとともに、区民に鑑賞の場を提供します。	来場者数 延べ 7,000 人	来場者数 延べ 7,000 人
区民プロデュース 支援事業 (地域文化部 生涯学習 コミュニティ課)	新宿未来創造財団を通じて、区内で活動する自主活動団体並びに民間活動団体が企画する区民向け講座・イベント等の事業に対して支援を行うことで、団体活動の活性化と活動成果の地域還元のしくみづくりを行い、あわせて多様な区民のニーズに応えています。	支援事業数 40 事業	支援事業数 40 事業
コミュニティスポーツ 大会 (地域文化部 生涯学習 コミュニティ課)	新宿未来創造財団を通じて、区内10地区で実行委員会を組織し、子どもから高齢者まで誰もが参加できる種目により大会を実施し、地域におけるスポーツ活動の振興と地域社会の活性化を図ります。 毎年12月には、各地区大会の上位入賞者による中央大会を実施します。	参加者数 延べ 3,500 人	参加者数 延べ 3,500 人 実施種目・実施 内容の充実

○関係団体による事業

事業名 (関係団体名)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
ライフアップ講座 (新宿未来創造財団)	生涯学習に対する多様なニーズに応えるため、年代・目的・目標別など多様なカテゴリーのプログラムを実施することで、定期的な学習機会を提供するとともに、新しい仲間づくりの場とします。	参加者数 延べ3,104人	参加者数 延べ3,200人
ふれあい・いきいきサロン (新宿区社会福祉協議会)	外出機会の少ない高齢者、障害者、子育て中の方など地域に住む誰もが参加できる居場所づくりの活動です。 住民の方同士の情報交換、子育て中の不安解消などを目的に運営されています。サロンの立ち上げや、運営に関する相談など、サロン活動の運営支援を行います。	支援サロン 65サロン いきいきサロン傷害保険加入者 (登録サロンへの参加者数) 23,220人	支援サロン 75サロン いきいきサロン傷害保険加入者 (登録サロンへの参加者数) 30,000人

指標

指標名	現状 (平成25年度)	目標 (平成29年度)
ことぶき館・地域交流館の利用登録者数	5,572人	6,000人

施策2 社会貢献活動への支援

高齢者が蓄積してきた知識や経験を、ボランティア活動や地域活動といった社会貢献活動に活かせるよう支援を行います。

また、シニア活動館が社会貢献活動の拠点となって、新宿区社会福祉協議会、NPO等の多様な団体との連携により、地域人材の育成と活躍の場づくりを進めます。

現状

【各種事業・活動の状況】

- 介護支援ボランティア・ポイント事業では、介護保険施設等でのボランティア活動を行った際に換金又は寄付できるポイントを付与し、高齢者等がやりがいを感じながら活動できるよう支援しています。平成25年度末時点では、489名が活動登録を行っています。
- 高齢者及びその介護者が気軽に立ち寄り交流できる地域安心カフェを区内3地域で展開し、多くの区民ボランティアが活躍しています。
- 高齢者のふれあい機会と見守りのため、25年度末時点、16の食事サービスグループが高齢者福祉活動事業補助金を活用し、食事提供による見守り支援を実施しています。
- シニア活動館では、指定管理者による地域人材の育成を実施し、多くの人材が活躍しています。
- 平成24年度から開始した高齢者見守り登録事業では、新聞販売店、公衆浴場、生活協同組合、郵便局等、高齢者に身近な民間の登録事業者が、通常業務の範囲内で気づいた高齢者に関する異変を高齢者総合相談センターへ連絡するなど、高齢者を見守るしくみづくりを進めています。

【住民をつなぐコーディネート機能】

- 新宿未来創造財団が開発・運営しホームページ上で広く公開している登録人材検索・システム「新宿地域人材ネット¹」と連携して、登録人材の活用を進めています。
- 生涯学習活動団体の中から、広く生涯学習・生涯スポーツを指導・支援する個人や団体を登録し、人材情報、活動情報を包括的に網羅するための「人材バンク制度」の整備を進めています。人材バンク登録者が区・財団事業及び地域で実際に活動した日数については、平成24年度の4,253日から、平成25年度は4,491日に増加しています。

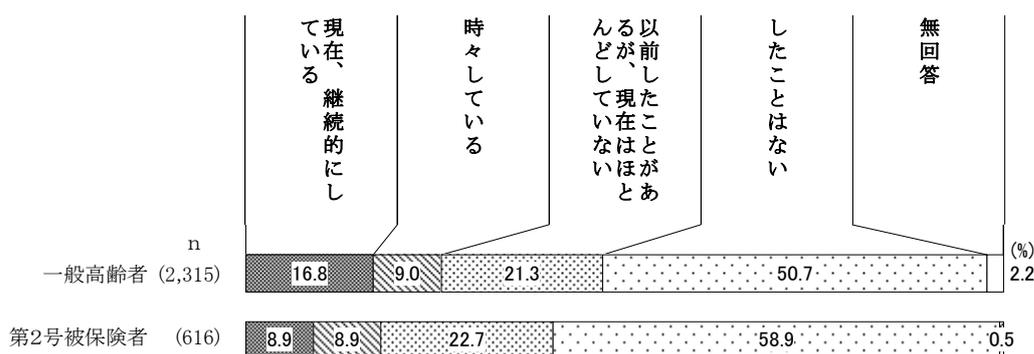
¹ 区内で活動する生涯学習の団体や指導者と、区内で人材を探している方、活動したい方をつなぐネットワークサービス

■新宿区社会福祉協議会内のボランティア・市民活動センターの地域活動支援事業では、ボランティア登録者数、登録団体数とも年々増加しています。

平成25年度「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果では・・・・・・・・

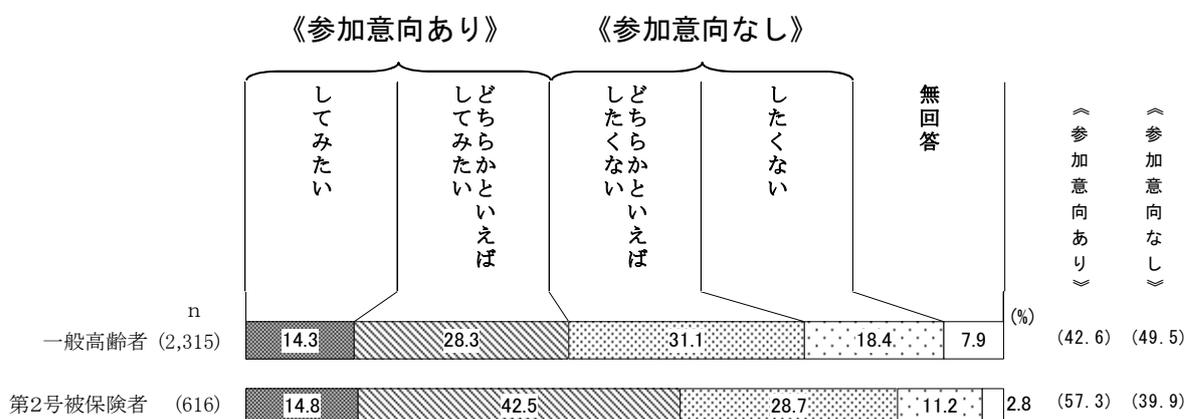
★地域活動・ボランティア活動の状況

調査間比較



★今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向

調査間比較



「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果によれば、地域活動・ボランティア活動の状況は、一般高齢者、第2号被保険者とも、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」という潜在的活動者層が2割強います。また、今後の活動の参加意向は一般高齢者より第2号被保険者のほうが高く、潜在的活動希望者層が6割弱います。

課題

【地域人材の活躍の場づくり】

- 「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果から、ボランティア活動や社会貢献活動に対して潜在的に意欲のある人が、一人ひとりの意向に沿った実際の活動に結びつくよう、情報提供等のしくみづくりが必要です。

【自主的活動への支援】

- 食事サービスボランティアの高齢化により活動が困難なグループも出てきています。新規ボランティアの獲得と育成が課題となっています。

取組の方向性

【自主的活動への支援】

- 介護支援ボランティア・ポイント事業について、広報等を活用した周知を徹底するとともに事業の拡充を検討するなど、ボランティア活動を支援する取組の充実を図ります。
- 認知症高齢者支援施策との連携を図るなど、見守りの担い手となる人材の確保、育成に努めます。
- 高齢者福祉活動事業助成等、高齢者の福祉活動に対する助成を継続しながら、参加者がお互いに関心を持ち、見守り・助け合う気持ちの醸成を図ることで、支援を受ける立場であっても支援できる地域人材としての育成支援に取り組みます。
- 登録人材検索・照会システム「新宿地域人材ネット」の情報を地域に積極的に発信し、登録人材を増やすとともに、経験を生かした活躍の機会を広げていきます。

【住民をつなぐコーディネート機能の活用】

- シニア活動館では、新宿区社会福祉協議会やNPO等多様な団体との連携・協働を推進することで、社会貢献活動に意欲を持つ地域人材を育成し、またそれら人材の活躍の場づくりを支援します。
- 「新宿地域人材ネット」を生涯学習団体や活動したい個人での活用だけでなく、シニア活動館等の規模の大きな社会貢献活動を支援する施設組織等でも活用してもらえるような取組を行います。

施策を支える事業

○主な事業

事業名 (担当課)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
【再掲】高齢者の社会参加 といきがづくりの拠点 整備 ※二次 (福祉部 高齢者福祉課)	ことぶき館を、ボランティアなど 社会貢献活動の拠点とする新た な機能を加えた「シニア活動館」 と、地域での仲間づくりや介護予 防などに取り組む場となる「地域 交流館」に整備します。	シニア活動館 4館 地域交流館 14館	シニア活動館 5館 地域交流館 15館
介護支援ボランティア・ ポイント事業 (福祉部 高齢者福祉課)	18歳以上の区民が介護保険施設 等でボランティアや高齢者を見 守る地域見守り協力員等の活動 を行った場合に換金又は寄付で きるポイントを付与する事業を 実施し、高齢者のいきがづくり 及び高齢者を支えるためのしく みづくりを推進します。 (新宿区社会福祉協議会委託事業)	登録ボランテ ィア活動率 53% (実活動数/ 登録者数)	登録ボランテ ィア活動率 60% (実活動数/ 登録者数)
高齢者福祉活動事業助成 等 (福祉部 高齢者福祉課)	高齢者の日常生活支援、介護予 防、いきがづくり及び健康づく り等に関する活動を行う人及び 団体の事業に対し、助成を行いま す。	助成事業数 19事業/団体 19事業申請	助成事業数 19事業/団体 19事業申請
生涯学習・地域人材交流 ネットワーク制度の整備 ※二次 (地域文化部 生涯学習 コミュニティ課)	新宿未来創造財団を通じて、「新 宿地域人材ネット」を活用しなが ら、人材バンク（生涯学習指導 者・支援者バンク、アーティスト バンク、日本語学習ボランティ ア、通訳・翻訳ボランティア等） 制度を推進し、地域の個性や特色 を生かした生涯学習活動等を行 うためのきっかけづくりを行いま す。	登録者が実際 に区・財団事業 や地域で活動 した日数 3,100日	登録者が実際 に区・財団事業 に地域で活動 した日数 3,200日
高齢者クラブによる 見守り活動 (福祉部 高齢者福祉課)	高齢者クラブ会員が友愛活動と して、概ね58歳以上の高齢者ク ラブ会員及び近隣に居住する病弱 や寝たきり、一人暮らし高齢者の 家庭等を定期的に訪問し、話し相 手や日常生活の援助等の活動を実 践することにより、高齢者の孤 独の解消を図るとともに、高齢者 による高齢者支援の推進を図り ます。	見守り活動を 行っている高 齢者クラブ数 112団体	見守り活動を 行っている高 齢者クラブ数 126団体

○関係団体による事業

事業名 (関係団体名)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
ボランティア・市民活動センターの地域活動支援事業 ----- (新宿区社会福祉協議会)	新宿区社会福祉協議会内の新宿ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動や市民活動の相談・支援を行います。新宿ボランティア・市民活動センターと6カ所のボランティア・地域活動サポートコーナーは、ボランティア活動をしたい方とボランティア活動を必要とする方の出会いのお手伝いから、さまざまなボランティア・市民活動団体への支援までをコーディネートします。 また、福祉団体・施設やNPO等市民活動団体及びボランティアグループ等と住民との協働、子ども・高齢者・障害者など、多世代の相互理解を目的とした市民活動を進めます。	ボランティア 登録者数 2,400人 登録団体 200団体	ボランティア 登録者数 2,500人 登録団体 250団体

指標

指標名	現状 (平成25年度)	目標 (平成29年度)
【調査】地域活動参加者の割合 (一般高齢者調査)	25.8%	30%

施策3 就業等の支援

公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センター（高年齢者の方を対象とした無料職業紹介所「新宿わく☆ワーク」）や公益社団法人新宿区シルバー人材センターなど高齢者の就業等に関わる機関との連携を強化し、高齢者の就労意欲やニーズに対応した就業機会の拡大などに向けた取組を支援します。

現状

【高齢者の就労意識】

- 「高齢者の保健と福祉に関する調査」の一般高齢者調査の結果では、収入のある仕事をしている高齢者は36.6%と、3割台半ばを超えています。また、収入のある仕事をしていない高齢者の中であっても、19.7%が「仕事をしたい」と回答しており、就業に対するニーズが高いことがうかがえます。

【職業相談の状況（新宿わく☆ワーク）】

- 新宿区勤労者・仕事支援センターでは、ハローワークでは就職が決まりにくい高年齢（概ね55歳以上）の方を対象に無料職業紹介所（新宿わく☆ワーク）を開設しています。

これまでの数年間は年間200名程度の方が新宿わく☆ワークの紹介で就職に至っていましたが、平成25年度は150名程度に留まりました。要因としては、景気の上向き傾向の影響で、50歳代及び60歳代前半の方が比較的容易にハローワークで就職が決まる傾向があることなどが考えられます。また、年金の受給開始年齢の引き上げ、雇用延長などの様々な理由で新宿わく☆ワークに来所する求職者の平均年齢が60歳代後半から70歳代となっており、結果として就職が決まりにくくなっていることなどが考えられます。

【新宿区シルバー人材センターの活動状況】

- 新宿区シルバー人材センター¹（以下、「シルバー人材センター」という。）では、現在、約1,800名の原則60歳以上の健康で働く意欲のある高齢者が会員として登録しており、平成25年度の主な入会動機は、「生きがい社会参加」39.2%、「時間的余裕」19.6%、「経済的理由」18.0%、「健康維持増進」16.5%などです。

¹ 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、区市町村ごとに設置されています。

シルバー人材センターでは、高年齢者にふさわしい仕事を引き受け、会員各人の希望に沿って臨時的かつ短期的又は簡易な業務に就業するシステムを採り、ボランティア活動等も行っています。

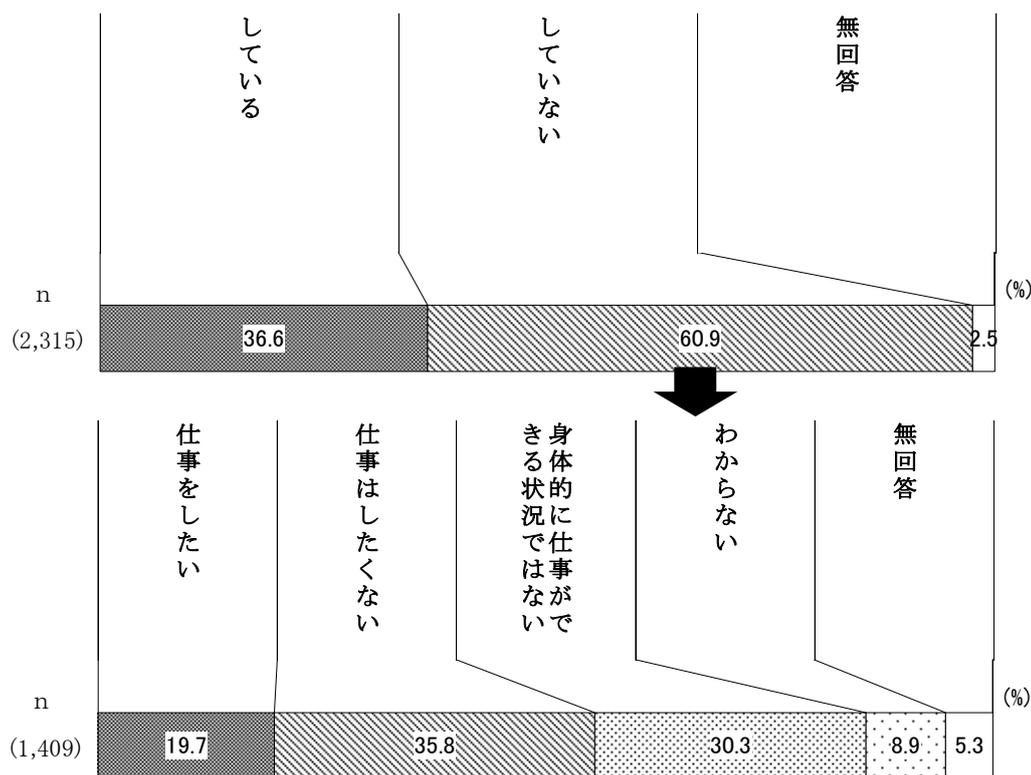
平成25年度の仕事の種類別の受託件数実績は、屋内清掃作業が3,526件と最も多く、次いで家事援助サービスが3,039件となっており、高齢者の豊富な経験を生かすことのできる仕事を多く紹介しています。また、会員就業率は、平成24年度で72.3%、平成25年度で72.9%とほぼ横ばいになっています。

区では、こうしたシルバー人材センターの活動に対する補助金交付を通じて、円滑な事業運営を図るとともに高齢者のいきがづくりや地域貢献に寄与しています。

平成25年度「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果では・・・・・・・・

★就労状況と就労していない人の今後の就労意向

一般高齢者



「高齢者の保健と福祉に関する調査」結果によれば、収入のある仕事をしている高齢者は3割台半ばを超え、していない人の中でも約2割の人が「仕事をしたい」と回答しています。

高齢者の就労意向が実際の就業につながるよう、情報提供や就労機会づくりの重要性がうかがえます。

【高齢者の就労支援】

- 高年齢者の就労条件や就労意欲などに沿った就業機会の拡大及び求人開拓に繋がるよう、関係機関の連携強化や各種情報の提供など、側面的支援が求められています。

【新宿わく☆ワーク】

- 職業紹介を行っていくうえで、就職者数の向上やマッチング率向上のためには求職者及び求人数の拡大が欠かせません。近年の新規求職者数は減少傾向にあるものの、当該事業を必要とする潜在的ニーズは大きいため、求職者及び求人数の拡大が必要です。
- 求人については、微増傾向にあるものの、職種が体力的に厳しい清掃、ビル管理、警備に偏っており、収入面でも比較的低水準になっています。高年齢者の経験やスキルが発揮でき、いきがいを持てる就労先の求人開拓が必要です。

【新宿区シルバー人材センター】

- 大きな課題としては、就業機会の拡大及び会員の就業率の伸び悩みが挙げられます。シルバー人材センターが引き受ける仕事の範囲には、臨時的かつ短期的な就業であること、危険・有害な仕事でないことなどの条件があります。また、依頼主と会員が雇用関係とみなされないように指揮命令が発生しないことや、従業員と混在作業をしないことなどの条件もあります。このような条件に沿って、シルバー人材センターでは、就労先や就業機会の拡大などに努めています。しかし、就業率は、景気による影響も大きく受けます。また、平成24～26年度の間会員の就業率は、約73%とほぼ横ばいに推移していますが、会員として登録しても、やりたい仕事がないなど、会員の希望と紹介する仕事が合致しないという原因もあります。また、会員数の伸び悩みも課題であり、引き続きシルバー人材センターの周知及び会員数の増加に向けた取組への支援が必要です。

取組の方向性

【関係機関相互の連携強化】

- 高齢者のニーズや希望を的確に把握し、新宿ここから広場でともに事業展開している新宿わく☆ワークとシルバー人材センターなど関係機関が連携し、高齢者が適切な機関で支援を受けられるように取り組んでいきます。

【新宿わく☆ワークを通じた就労機会の拡大】

- 高年齢者が集まりやすい図書館などの公共施設にチラシ等を配布することで、当事業を周知し、より多くの求職者に必要な情報が届くようにします。また、2～3時間程度の短い時間ではなく、より長い時間働きたいというような求職者のニーズを聞き取り、複数の仕事の掛け持ちなどの提案を行います。また、求人側へは労働時間など求人内容の見直しを働きかけ、求職者のニーズに合うような求人の要望を行っていきます。そして、求人については、独自に開拓した企業との関係を大切にし、地道に開拓を行います。

そのほかに、就職に結びつきやすい面接会を多く開催し、求職者の面接の機会を確保するとともに、求職者へのセミナーなどを実施し、就職につなげる機会を増やしていきます。今後とも、就労意欲のある高年齢者に対し、充実した支援を行っていきます。

【シルバー人材センターを通じた就業機会の創出】

- シルバー人材センターは、高齢者の多様なニーズに対応した安全で良質な就業機会の確保及び提供を行い、高齢者のいきがづくりや地域貢献に寄与する活動拠点として事業を展開してきました。

シルバー人材センターの設立以来、社会経済環境は大きく変遷し、現在では、急速に進展する超高齢社会や年金・医療・介護等の社会保障制度の改正など、高齢者の日常生活への影響が懸念されています。今後は、元気な高齢者が介護を必要とする高齢者の生活を支援するなど、地域ニーズに対する高齢者の役割も増々大きくなっていきます。

今後さらに、地域ニーズと高齢者の就業ニーズをマッチングさせていくシルバー人材センターの役割は、より一層大きいものとなります。

区では、このようなシルバー人材センターが推進する高齢者の就業機会の創出やボランティア活動の拡大のため、センターの運営助成金の交付に留まらず、各事業の周知活動への協力や運営に関する助言等を通じた側面的支援を引き続き実施していきます。

施策を支える事業

○主な事業

事業名 (担当課)	事業概要	平成26年度末 見込	平成29年度 目標
障害者、高齢者、若年非就業者等に対する総合的な就労支援 ※二次 (地域文化部 消費者支援等担当課)	新宿区勤労者・仕事支援センターを通じて、就労意欲はあっても現実的に就労に結びついていない障害者、高齢者、若年非就業者等に対して、相談から実習、就職準備、職業紹介などの効果的な就労支援のしくみを確立し、総合的な就労支援を行います。	高齢者の 就職者数 215人	高齢者の 就職者数 230人
シルバー人材センターへの支援 (福祉部 地域福祉課)	新宿区シルバー人材センターは、登録会員に対し、高齢者の経験や技能に応じた仕事の紹介や支援をします。また、区は就業機会の開拓・拡充に努める新宿区シルバー人材センターの運営費を助成します。	シルバー人材センター会員 就業率 75%	シルバー人材センター会員 就業率 82.9%

指標

指標名	現状 (平成25年度)	目標 (平成29年度)
シルバー人材センターの受託件数	11,994件	14,400件